地域包括ケアを支える伊達ネットワーク委員会6月研修会
アンケート集計結果

日時：令和元年6月8日（土）
14：00～16：30
場所：保原中央交流館

参加者85名　アンケート回収58名（回収率68．2%）

1．今日の研修会についてご意見、ご感想等自由にお書きください。

・代理人決定者が肝心だとよくわかった。本人が誰をどんな理由で選んだのか。そして、選ばれた側も本人の価値観をどう捉えるか。自分自身もその決定に関わることを考えるとよく聞いておかねば。
在宅で看取ると決めていても、最後には症状が強くなり、家族がそれに耐えられない。責任、重圧に潰されてしまう。
最後の救急搬送も尊重されるものではないかと思った。
・本人の意思、家族の意思を聞く。一人ひとりの価値観、意思の尊重。
・皆様のお仕事の大切さを改めて感じさせられました。ACPと言われれば難しいことのように感じますが、普段、家族として接している中でも行っていきたいと思います。
・代理決定者は本人が選んで良いことを知り、新しい知識だった。
患者がどういう経過になるのか、情報共有を図っていきたいと思った。
患者さんから話が出たことを記録に残すことも大切だと思いました。
・「いよいよ」の時期が近づいた際に慌てないためにという事と、本人の意思表示ができない場合の意思確認が家族のものなのか、本人の意思を汲んだ家族の意思なのかを考えて、看取りの対応をしていきたい。
・普段のモニタリングで何気なく話していることが、いざというときの本人の意思に繋がっているのかなと感じた。それをACPの段階で共有できるといいなと思った。
・患者さんの「価値」を知るために、普段から色々なことを話していこうと思いました。できれば、家族も一緒にお話できるといいと思いました。
患者さんから聞いた話を共有できるようにしていきたいと思いました。
ACPを始めるタイミングを逃さないようにしていきたいと思いました。
・ACPに対して考え方が大きく変わりました。今までは、家族が満足する落ち着いた最後が迎えられたら良いと考えていました。後悔が残らない家族はいないと思っていました。本人の価値観、意思を尊重し、どのように生きてきたか何が好きかを考え、多職種で情報共有して意見をあげながら進めて行ければと思いました。
・「薬局」は、患者さん本人も意思や考え方もしっかりしていて「ACP」が必要な在宅患者が少なかったので、今後の患者さんの一人暮らし、認知症の増加に伴って、ACPが絶対必要になると感じた。
・先日、在宅での看取り介護を支援したケースがありました。医師より老衰での終末期と言われたときに、自分も今後の支援をどうしていったら良いのか分からず慌ててしまったので、今回の研修に参加しました。
まずは本人の価値観等を知ること、それを関係者で情報共有することが大事だとわかり、今後の業務に活かしていきたいです。
・本人の意思の確認をするタイミングが大切（まじかになると死という言葉の重みがありすぎて、話しにくくなってしまうので、あくまで事前の方が話しやすい）。
家族の気持ちを汲み取ること。本人の希望に近づけることが難しいと思いました。
・普段から利用者様と話をしていくことが大切だと分かりました。その人がその人らしく最期を迎えられるようにするためには、元気な時からその人を知ることが大事なので、本人、家族と話す機会をたくさん作っていきたいと思います。
ありがとうございました。
・本人がどうしたいのかしたくないのかが、最後は一番大切だという事がとても共感できた。本人にとっても、家族にとっても悔いの残らない看取りにできるようにしたいと思いました。詳しくわかりやすい講演をありがとうございました。
・在宅での看取りを経験し、皆さん自分らしく最期を迎えられいいなと思いました。いずれもご自身の意思がわかりやすい方々だったので、叶ったのだと思います。「話し合い」を持つことがその第一歩で、そのきっかけをつくるタイミングも考えながら、訪問看護師ではありますが、仕事していけたらと思いました。
・コミュニケーションが大切。その人らしさを失わず、どうしたくないかを聞く。本人の考え方、価値観を知る。
とても難しいと思った。いよいよは慌てるものだが、少しでも看取りに後悔が無いよう援助したい。
菅家先生の話が分かりやすかった。
・桑名先生が言った通り、ご家族の悔いの残らないように看取りを持っていきたいと今まで思っていました。

本人の意思も大切にはしているのですが、やっぱり苦しんでいる本人を目の当たりにしていたら家族は延命したいと思います。その時に本人のことを知っていることで、すり合わせすることができるのだと思いました。
・自分が一番慌ててしまっていると感じながら聞かせていただきました。本人、家族が慌てることを予測し、落ち着いて支援できるようなツールになりました。
・大変参考になりました。死についてもですが、生（自分らしく生きる）のつながりとして死（看取り）を大切にしていきたいと思いました。今後、たくさん話し奥にある価値に気付けるよう関わりたいと思いました。
・情報共有、多職種連携の必要性と患者さんの思いを丁寧に聞き取ることが大事と改めて学びました。
・これからの患者さん、家族との関わり合いの中で、患者さん本人の意向を大切にしながら家族の意向も含めて、多職種での連携を密にしていきたいと思います。揺れ動く気持ちにも同意しながら、逆に振りまわされないように医療者側も知識をしっかりつけていきたいと思います。
・本人、家族に聞きづらい内容ではあるが、いざという時に慌てないよう元気なうちから思いを確認し、関係事業所と連携していく必要があると改めて感じた。
家族の思いを優先することもあったが、「本人がどうしたいか」を忘れずに支援したい。
・職種によってケアの考え方、プランが異なることが多いので、チームになって話し合うのが大切。
本人の考えを尊重。できること、できないこと→何をしたいか、したくないか家族の意見も大事。
・本人の価値観を含めた意思決定が大切だと思った。本人と家族とのコミュニケーションを常に密にとる必要があると思った。多職種連携・情報共有が大切と思った。
・本人の考え方や価値観を聞いて判断していくことが大切である。
・参加してよかったです。前提として本人告知がしっかりされていると思いますが、実際そこができていない（本人、家族が望まない）場合も多く、どのように関われば良いのか悩むところです。
・菅家先生のお話も良かったですが、多職種の方とのワークショップもよかったです。家族や本人が慌ててしまう前にいざとなるといつも自分が慌ててしまいます。
・ACPの具体的な方法について、職種上質問の内容は少々違えど委ねる手法を知り、現場に役立てていきたいです。
・患者本人の意志決定の重要さを感じました。ついつい家族の思いに寄り添うことが多く、本人の代弁なのかをきちんと聞き取れるようにしたいと思います。今まで気付けなかったことに意識を置いて業務遂行したいと感じました。
・多職種の方々と最期を迎えるにおけるテーマで議論できたことは有意義であった。重要なことは、情報共有、連携であると感じた。
・ACPを行うタイミングが大事であること、少しずつ話を進めていくことが大事であること、専門職としてどのように関わっていけばいいのか勉強になった。
・「自分の最期を誰に頼みたいか」伝えておくことが大切と感じました。
グループワークでは、コミュニケーションの取り方、何気ない会話も大切なのだと思いました。慌てないようにと思っていても、多分慌てると思います。その時に今日お聞きしたこと、グループワークで話し合ったことを1つでも思い出せるようにしたいと感じました。
・必要性は十分に誰しも持っているが、タブーな話題として捉えられていた。「悔い」が残らないよう職場で実践していきたい。
・最期までよりよく生きるために、ご本人、ご家族と良く話し価値観などをコミュニケーションを通して収集することが必要だと再確認。そのためには信頼を築くことが必要だと思った。
・「延命」という事についてよく考えるきっかけとなりました。一言に延命と言っても点滴、胃瘻、心臓マッサージ、酸素マスク…等色々な方法があるので、どれを希望しどれを希望しないのか、よく考えていただく、話し合ってもらうことが必要だと思いました。
・「いよいよの時」は必ず来る。その時のため、利用者のために日々の会話、共有する時間が大切。
・本日の研修を受けての感想は、提案としては「私のカルテ」を利用しながら聞き取りをして、ACPを実践していければいいと思う。
・予後予測し、心構えのタイミング…難しい課題です。
・一度決定したACPでも状況によって内容が変化していくことについて考えが変化したと思います。決定事項という認識があったので…
・多職種との価値観の違いを認めながら、一番良い方法を見つけるのは、やはり互いのコミュニケーションが必須であることを再認識しました。互いに自己主張するだけの場にならないよう配慮したいです。
・その方の人生の最期に向けて、より良い終わり方を考えることが、ご本人にとってもご家族にとっても大切だと思いました。家族にとっては悔いのない介護をすることがその後の人生などの糧になると思います。
・看取りに取組んでいる施設なので、今日の講演の内容を今後の取り組みに活かしていきたいと思います。
ありがとうございました。
・研修会で多職種で意見交換できる場として大変貴重です。

・多職種、施設の情報を知る機会となりとてもよかったです。ありがとうございました。
・いろいろな職種の方との話が聞けて良かったです。
・初参加だったが、ワークショップでの意見が参考になった。
・日頃のコミュニケーションが大切だと思いました。
・振り返りの場をありがとうございました。
・参加してよかったです。講演を聞き知識を得ることもできました。何より具体的に自分に出来ること、考え方/視点を知ることができました。ありがとうございます。
・多職種の方の経験談が聞けて良かった。情報共有の大切さを改めて感じた。
・多職種、他地域の方と意見交換ができ大変勉強になりました。ありがとうございました。
・日々の関わりを振り返り、多くの気付きがありました。もう少し講演の時間があるといいかと思いました。
・自分の今までの支援を振り返ることができました。本人の価値観、これが大切という事を改めて学びました。
・今までにやっている在宅医療の現場の業務に直結するお話だったので、とてもうれしかったです。
いろんな方のお話をグループワークで聞くことができてとても参考になりました。
・今まで行っていた支援の中で気付かなかった視点にたくさん気付かせていただくことができました。
今後の支援に活かしていきたいと思います。
・菅家先生のお話は分かりやすく、楽しく聞くことができました。
・分かりやすい説明でこれからの仕事に役立てたいと思います。
・実のあるお話、実のあるグループワークでした。
・とても分かりやすい内容でした。

2. 今後ネットワーク委員会の研修会でとりあげて欲しいテーマを教えてください。

・多職種連携について、看取り・ターミナルケアについて
・情報共有のポイント、何を重視して伝達するか
・スタッフ間の情報共有
・ネットワークをつなげるための会合
・在宅現場での事例報告。施設における事例報告。情報共有について…有意義な情報とは何か。その手技・手法は何か
・8050問題について
・困りごとの吸い上げをしてほしいです
・家族志向ケアって何？！
・重度の認知症ケア、老人の心のケア等
・認知症
・精神、知的障がいのある高齢者への支援（医療、行政から）
・「看取り」の方向性とやり方
・延命治療や胃瘻の実態について
・延命治療
・緩和ケアについて
・ハラスメントについて、虐待について、障害者の特性について、災害時の動きについて、避難について、連携など
・利用者が不穏で興奮状態の間、内服薬で安定させる方法以外にどんな方法があるのか。
・今は思いつきませんが、また参加したいです。